

# 川崎が考える社会科学習

## 平成21年4月版 川崎市立小学校社会科教育研究会

平成24年	5月	「指導と評価」	一部改訂
平成25年	5月	「学習活動」	一部改訂
平成26年	5月	「学習過程」	一部改訂
平成27年	5月	「教材化」	一部改訂
平成28年	5月	「一人一人が生きる社会科学習」	一部改訂
令和元年	5月	「研究主題の設定」等	改訂
令和2年	10月	学習指導要領改訂に伴う修正	

## I. 川崎市の子どもたちの現状と目指す姿

### (1) 川崎市の今

2024年に市制100周年を迎える川崎市は、2017年4月に人口150万人を超えた。(図1)人口増加の原因の1つとして、10代後半から30代前半の若い世代の転入超過が挙げられる。また、区ごとの人口を見ても、人口が140万人を突破した2009年から150万人を突破した2017年にかけて、すべての区で人口が増加している。

(図2)その中でも中原区の人口増加率が最も高くなっている。人口増加の要因としては市内をつなぐJR南武線、東京・横浜を中心とした大都市とをつなぐ各私鉄や高速道路などの交通の利便性や武蔵小杉駅や新川崎駅周辺などの再開発・まちづくりが挙げられる。川崎市は全国政令指定都市の中で、人口は7番目に多く、2017年5月の前年度比較における人口増加率は1.03%、2015年の出生率は1.02%となり、大都市の中では最も高くなっている。

### (2) 川崎市の教育(川崎教育プラン)

上記で示した人口の増加は今後も続き、現在の小・中学生が40歳代を迎え、社会の中核を担う2045年には、人口の増加のピークを過ぎ(人口のピークは2030年152.2万人を想定)、生産年齢人口88.5万人に対し、65歳以上高齢者は48.2万人となることが推測される。社会は人工知能などの技術の進化により、仕事の在り方も劇的に変化することが予測される。現在の子どもたちが将来、社会で活躍をする頃には、新たな多くの課題が生じることが考えられる。社会がどのように変化したとしても、それらに適応したり課題と向き合ったりしながら、たくましく豊かな人生を送り、社会参画をしながら生きがいをもつことができるよう20年、30年、そしてその先の将来を見据えながら、教育の改善・充実を図っていくことが必要となる。

そこで、川崎市では、2015年3月に新たに「第2次川崎市教育振興基本計画かわさき教育プラン」を策定し、2018年には第2期を迎えた。かわさき教育プランの基本目標は、今後の本市の教育が目指すものを表し、これを2025年度までの教育の指針となる考え方として掲げ、その実現を目指した施策を実施計画に位置付け、推進をしている。



図1 川崎市の人口の推移  
(平成29年 川崎市統計データ)

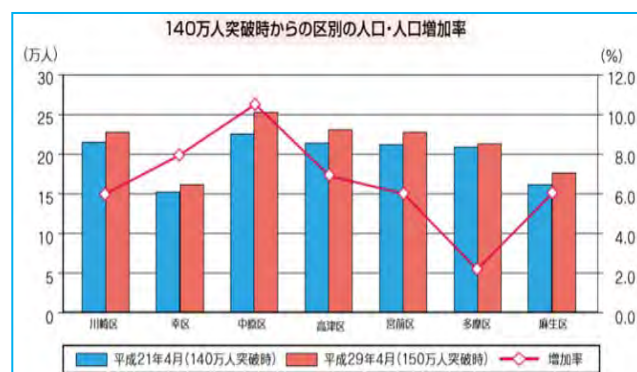


図2 140万人突破時からの区別の人口・人口増加率  
(平成29年 川崎市統計データ)

夢や希望を抱いて生きがいのある人生を送るための礎を築く

**自主・自立**

変化の激しい社会の中で、誰もが多様な個性、能力を伸ばし、充実した人生を主体的に切り拓いていくことができるよう、将来に向けた社会的自立に必要な能力・態度を培うこと。

**共生・協働**

個人や社会の多様性を尊重し、それぞれの強みを生かし、ともに支え、高め合える社会をめざし、共生・協働の精神を育むこと。

②社会科と関連の深い基本政策

○基本政策1 人間としての在り方生き方の軸をつくる

- キャリア在り方生き方教育  
社会の一員としての役割を果たすとともに、それぞれの個性、持ち味を最大限に発揮しながら、自立して生きていくために必要な能力や態度を育てる教育であり、子どもたちの社会的自立や共生・協働の精神を培う視点から、各学校における教育活動を幅広く見直し、これまでの取組を価値づけ、改革していくための理念。
- キャリア在り方生き方教育の3つの視点



社会科の特性を生かして育てる児童に身に付けさせたい基礎的・汎用的能力			
人間形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 相手の立場に立って考えることができる。</li> <li>• 自分から社会に参画することができる。</li> <li>• 相手と協働して活動することができる。</li> <li>• 相手の考えを認め、自分の考えをよりよいものにすることができる。</li> <li>• 自分たちの生活をよりよくするために行動することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 学習を自分のこととして身近に引き寄せて考えることができる。</li> <li>• 問題解決に向けて新しいことに挑戦できる。</li> <li>• 集団における自分の役割を自覚した言動をとることができる。</li> <li>• 学んだことを生活に生かすことができる。</li> <li>• 自分の成長のために学び続けることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 課題に対し問題やめあてを見出すことができる。</li> <li>• 問題の解決の見通しを立てることができる。</li> <li>• 見学や取材、資料を活用して調べることができる。</li> <li>• 課題や問題の解決に向けて粘り強く学習することができる。</li> <li>• 学習したことから新たな課題や問題を発見することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自分の将来に向けて目標を立てたり、努力したりすることができる。</li> <li>• 自分の役割は社会生活において必要であることが理解できる。</li> <li>• 様々な情報を適切に取捨選択、活用することができる。</li> <li>• 社会の一員として主体的に判断し、よりよい社会を目指すことができる。</li> </ul>

(2016年度 4年部会実践報告より)

○基本政策2 学ぶ意欲を育て「生きる力」を伸ばす

- ・新学習指導要領の全面実施に向けた、資質・能力の育成における授業改善  
⇒「4. 次期学習指導要領で求められる資質・能力の育成」で対応

③川崎市における教育課題への対応

○川崎市の主権者教育「自分の意思が社会を創る」

- ・主体的な社会参画の姿勢の育成
- ・政治や社会の諸問題や地域課題に「**関心**」をもつこと  
「自分はどうか考えるか」「友達や家族はどう思っているのか」  
「自分の考えを伝えてみよう」など
- ・社会や地域の一員としての「**自覚**」を高めること  
「自分は何ができるか」「自分でできることをしてみよう」  
「自分の力でよくすることができる」など
- ・4つの学習活動



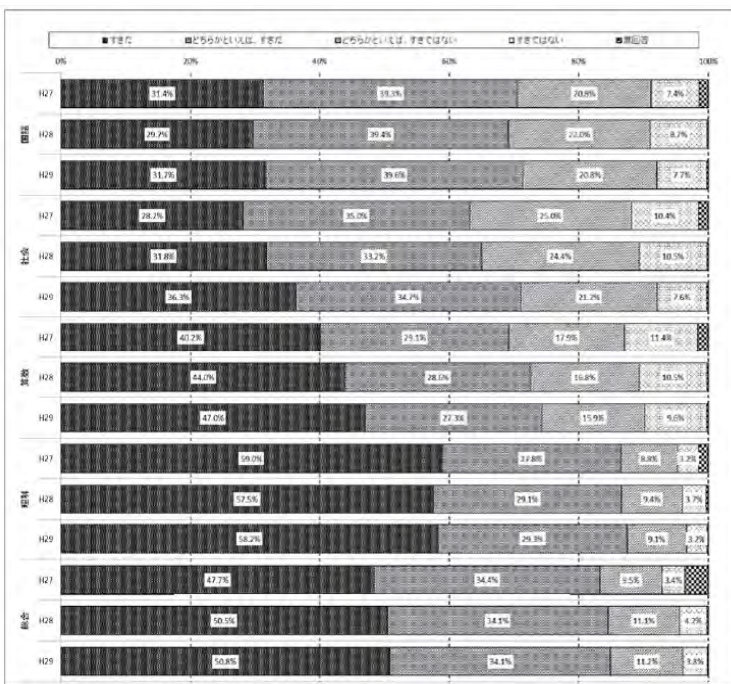
気付く	身近な問題や世の中で実際に起こっている出来事を自分のこととして捉え、問題意識をもつ。
話してみる 聞いてみる	自分が感じたことや考えたことを話したり、周囲の考えを聞いたりしながら、考えを修正したり、より確かなものにしていくこと。
実践する	気付き考え、周囲と語り合う中で、自分にできることを考えたり、実際に行動したりする。
振り返る	実践や学んだことを振り返り、次の活動につながるよう意識を高めていく。

3. 川崎市の社会科における子どもの実態

「平成29年度 川崎市立小学校学習状況調査 報告書」より

※枠内は数値の傾向とカリキュラム部会の意見

○好感度「次の学習は好きですか。」



○社会科の学習において、「すきだ・どちらかといえばすきだ」と答える児童の割合が年々増えている。

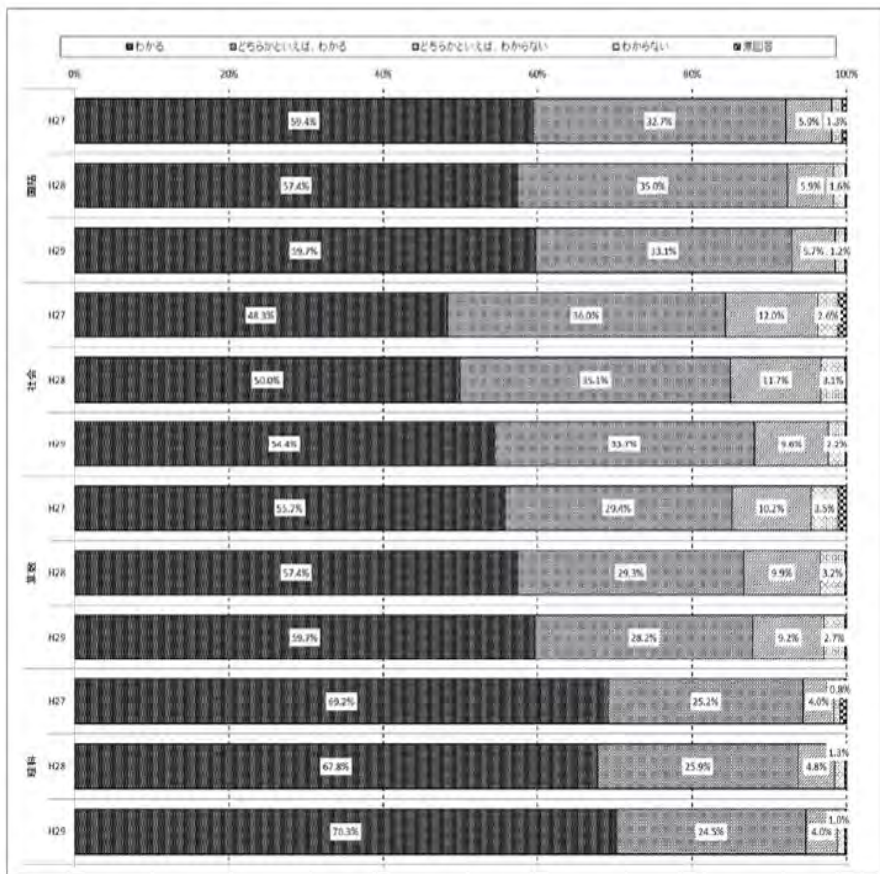
→各学校における社会科の授業づくりにおける成果が表れている。

△他教科に比べると「どちらかといえば、すきではない・すきではない」と感じている児童が多い。

→3・4年生までは、見学や生活体験を生かしていけるが、5・6年生では、資料の読み取りなど難しさを感じる子どもも多いのではないかと。

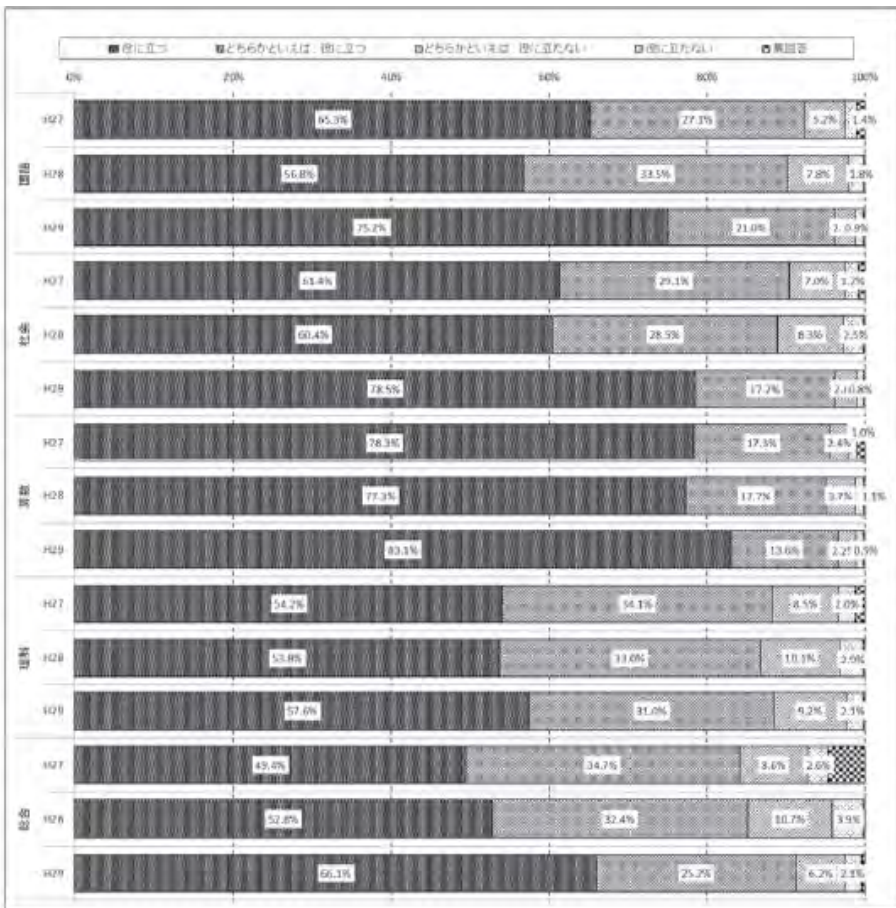
⇒資料の読み取りなど、中学年からの積み上げが大切になる。

○理解度「次の授業は、よく分かりますか。」



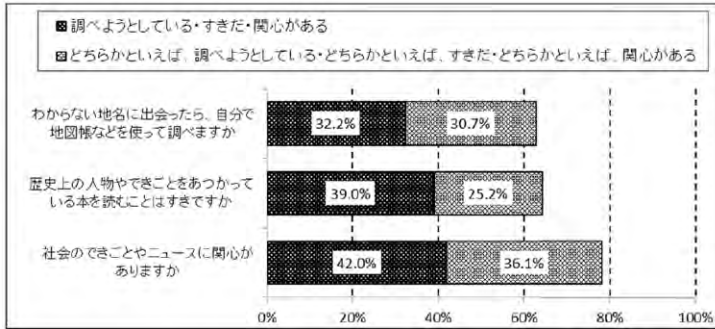
○社会科の授業において、「わかる・どちらかといえばわかる」と答える児童の割合年々増えている。  
 →各単元において児童が何を理解できればよいか、知識の構造図や単元構想図を中心とした教材研究の取り組みが成果として表れている。  
 △他教科に比べると「どちらかといえばわからない・わからない」と感じている児童が多い。  
 →社会科では、様々な立場から物事を考えるからこそ、正解が一つではないものが多い。

○有用感「授業で学んだことは、将来、社会に出たときに、役に立つと思いますか。」



○平成29年度から、質問の内容が「授業で学んだことは、生活の中で役に立っているとありますか」から変更され、「役に立つ・どちらかといえば役に立つ」と答えた児童の割合が増え、他教科と比べても高くなっている。  
 →「自分たちにできることは何か」「よりよい社会をつくるために大切なことは何か」など、単元の終末に「選択・判断」する場面を設定する授業が多くなってきた。未来の自分たちが考えていく課題だと感じている子が多くなっている。社会の課題と自分たちのつながりを感じている。

○社会科に関する質問



△地理分野に関しての関心が低い。地図帳配付が3年生からとなることから、資料の活用や教室環境の整備などを推進していく必要がある。

○社会の出来事に対する関心は高い。各単元にあった社会的事象との出会わせ方の工夫をさらにしていきたい。

問45 わからない地名に出会ったら、自分で地図帳などを使って調べますか。

	調べようとしている	どちらかといえば、調べようとしている	どちらかといえば、調べようとしていない	調べようとしていない	無回答
H27	27.2%	34.7%	24.2%	13.5%	0.4%
H28	29.2%	30.3%	23.6%	16.5%	0.4%
H29	32.2%	30.7%	22.0%	15.0%	0.1%

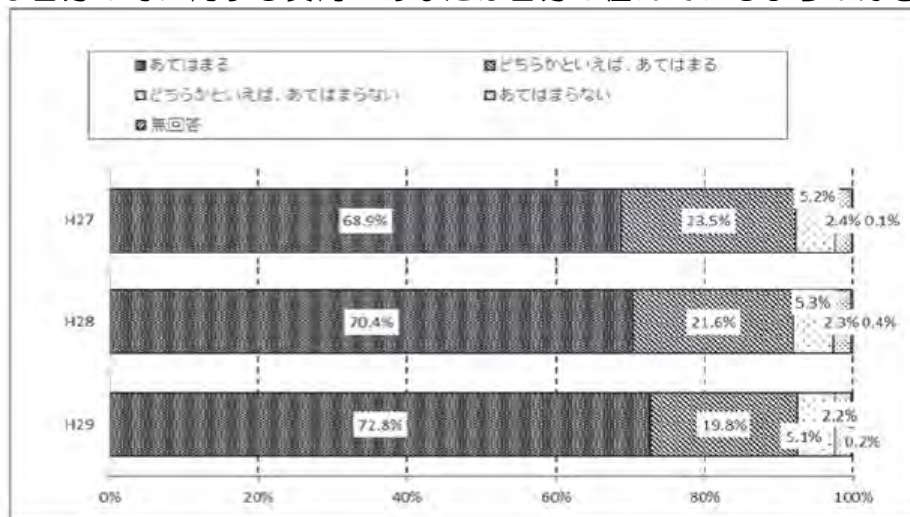
問46 歴史上の人物やできごとをアツかつている本を読むことはすきですか。

	すきだ	どちらかといえば、すきだ	どちらかといえば、すきではない	すきではない	無回答
H27	34.4%	25.5%	23.0%	16.7%	0.4%
H28	37.6%	24.6%	21.2%	16.2%	0.4%
H29	39.0%	25.2%	20.5%	15.1%	0.2%

問47 社会のできごとやニュースに関心がありますか。

	関心がある	どちらかといえば、関心がある	どちらかといえば、関心がない	関心がない	無回答
H27	39.7%	37.8%	15.7%	6.4%	0.4%
H28	38.3%	36.9%	16.7%	7.6%	0.4%
H29	42.0%	36.1%	15.1%	6.5%	0.3%

○自分の町に関する質問「あなたは自分の住んでいるまちが好きですか。」



・社会科に限らず、すべての教育活動において、大切にしていかななくてはならない項目となる。他地域から川崎へ来た保護者や家庭も増えている中、子どもたちを通して、川崎のすばらしさや良さを実感できるようにしていきたい。社会科が担う役割は大きいと考えられる。

◎川崎の児童が何に対して、「社会科は好き・分かる」と答えているのか調査が必要。

◎「将来、社会に出た時に役に立つ」という社会科を学ぶ意味の実感を生かして、「好き」「わかる」と感じる児童の割合を増やしていけるような授業改善が必要となる。

◎問題解決的な学習を通して公民としての資質・能力の基礎を育成することが重要となる。

(4) 次期学習指導要領で求められる社会科における公民としての資質・能力の育成

○「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編」から

・第2章 社会科の目標及び内容 第1節 社会科の目標 1 教科の目標

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
地域や我が国の国土の地理的環境，現代社会の仕組みや働き，地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して社会生活について理解するとともに，様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	社会的事象の特色や相互の関連，意味を多角的に考えたり，社会に見られる課題を把握して，その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする力，考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。	社会的事象について，よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を養うとともに，多角的な思考や理解を通して，地域社会に対する誇りと愛情，地域社会に対する誇りと愛情，地域社会の一員としての自覚，我が国の国土と歴史に対する愛情，我が国の将来を担う国民としての自覚，世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養う。

・第2章 社会科の目標及び内容 第1節 社会科の目標 2 学年の目標（2）  
各学年の目標の系統

「知識」に関する目標

3年	身近な地域や市区町村の地理的環境，地域の安全を守るための諸活動や地域の産業と消費生活の様子，地域の様子の移り変わりについて，人々の生活との関連を踏まえて理解する。
4年	自分たちの都道府県の地理的環境の特色，地域の人々の健康と生活環境を支える働きや自然災害から地域の安全を守るための諸活動，地域の伝統と文化や地域の発展に尽くした先人の働きなどについて，人々の生活との関連を踏まえて理解する。
5年	我が国の国土の地理的環境の特色や産業の現状，社会の情報化と産業の関わりについて，国民生活との関連を踏まえて理解する。
6年	我が国の政治の考え方と仕組みや働き，国家及び社会の発展に大きな働きをした先人の業績や優れた文化遺産，我が国と関係の深い国の生活やグローバル化する国際社会における我が国の役割について理解する。

「技能」に関する目標

3年 4年	調査活動，地図帳や各種の具体的資料を通して，必要な情報を調べまとめる技能を身に付ける。
5年	地図帳や地球儀，統計などの各種の基礎的資料を通して，情報を適切に調べまとめる技能を身に付ける。
6年	地図帳や地球儀，統計や年表などの各種の基礎的資料を通して，情報を適切に調べまとめる技能を身に付ける。

「思考力、判断力、表現力等」に関する目標

3年 4年	社会的事象の特色や相互の関連，意味を考える力，社会に見られる課題を把握して，その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力，考えたことや選択・判断したことを表現する力を養う。
5年 6年	社会的事象の特色や相互の関連，意味を多角的に考える力，社会に見られる課題を把握して，その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力，考えたことや選択・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりする力を養う。

「学びに向かう力、人間性等」に関する目標 <態度>

共通	社会的事象について，主体的に学習の問題を解決しようとする態度や，よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養う。
----	--

「学びに向かう力、人間性等」に関する目標 <愛情や自覚など>

3年 4年	思考や理解を通して，地域社会に対する誇りと愛情，地域社会の一員としての自覚を養う。
5年	多角的な思考や理解を通して，我が国の国土に対する愛情，我が国の産業の発展を願い我が国の将来を担う国民としての自覚を養う。
6年	多角的な思考や理解を通して，我が国の歴史や伝統を大切にして国を愛する心情，我が国の将来を担う国民としての自覚や平和を願う日本人として世界の国々の人々と共に生きることの大切さについての自覚を養う。



(5) 川崎市の社会科で目指す子どもの姿

川小社研の社会科学習が目指す子どもの姿

- 社会的事象（ひと・もの・こと）に主体的にかかわり、自ら問いを見つけ、問題解決の見通しをもって学び続ける子
- 資料を活用して調べ、分かったことを比較・関連・総合して考え、社会のしくみの在り方を理解できる子。
- 見方・考え方を働かせて、様々な人の立場の考えを認め合いながら、社会への関わり方を選択・判断できる子
- ともに生きるよりよい社会をめざし、学んだことを学習や社会生活に生かそうとする子



○目指す子どもの姿に迫るために、育成したい資質・能力

知識及び技能	思考力，判断力，表現力等	学びに向かう力，人間性等
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 見学や取材、資料から情報を読み取ることができる。</li> <li>• 様々な情報を分類したり、整理したりして、適切に選択、活用することができる。</li> <li>• 調べて分かったことを分かりやすくまとめることができる。</li> <li>• 地域の特色や地域社会の仕組みや働きを理解することができる。</li> <li>• 社会生活を人々の生活との関連を踏まえて理解することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 課題に対して問題意識をもち、学習問題を設定することができる。</li> <li>• 相手や様々な人の立場に立って考えることができる。</li> <li>• 相手の考えを認め、自分の考えをよりよいものにすることができる。</li> <li>• 問題の解決に向けて、学んだことを生かして、社会への関わり方を選択・判断することができる。</li> <li>• 自分の考えや選択・判断したことを表現することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 問題の解決に向けて、見通しを立てることができる。</li> <li>• 課題や問題の解決に向けて粘り強く学習することができる。</li> <li>• 自分から社会に参画しようとするすることができる。</li> <li>• 相手と協働して活動することができる。</li> <li>• 自分たちの生活をよりよくするために行動しようとする。</li> <li>• 社会の一員として主体的に判断し、よりよい社会を目指すことができる。</li> </ul>